

東京大学 理学部 地物研 シンポジウム No. 3

(1966年5月21日22日) 講演集

地震及び火山活動に伴う地磁気変化

— 目 次 —

序	永 田 武	
◎ 地震に伴う地磁気変化に関する研究のまとめ	加 藤 愛 雄	1
(討論) 南海道及び東南海地震における地磁気変化	歌 代 慎 吉	21
(討論) 松代群発地震の地磁気変化について	柳 原 一 夫	22
◎ 火山活動に伴う地磁気変化	横 山 泉	25
(討論) 1962年三宅島噴火の際の地磁気変化調査	行 武 毅	36
地震地域における磁気測量結果	田 島 稔	
	藤 田 尚 美	37
(討論) 吉野地震に関連した偏角変化	宮 腰 潤 一 郎	47
◎ 地震、火山活動及び地殻温度変化に伴う地磁気変化の経め	力 武 常 次	49
◎ 地殻の歪と磁場変化	永 田 武	59
(討論) 圧力による磁性の変化	木 下 肇	79
地震学者からの批判と要望	萩 原 尊 礼	81
	浅 田 敏	83
◎ 今後の測定及び実験的研究の方向	坪 川 家 恒	87
(討論) 地震予知研究計画による プロトン磁力計の製作とその試験	力 武 常 次	91
◎ (討論) プロトン磁力計の安定性	柳 原 一 夫	103
◎ 今後の理論的研究の方向	力 武 常 次	105

東京大学理学部地球物理研究施設

1966年8月

序

地震及び火山活動に伴う地磁気変化

東京大学理学部地球物理研究施設は昭和40年度特殊な問題についての半公式な形の研究会を2回催し、その時点の緊急な問題について学会や学術会議主催の公式のシンポジウムとは異質の成果をあげて来たと信じています。昭和41年度の第1回研究会(通算第3回)研究会のテーマとして、表題の如き問題を選びました。

この問題は古く田中館愛橘、長岡半太郎両先生が現役時代にとりあげられ、その後昭和年代になってから中村左エ門太郎、加藤愛雄両博士によって再びとりあげられ活発な論議をよび起した長年の研究宿題であります。然し、火山活動時における1~2の例を除いては未だ決定的な解答が与えられておりません。又火山活動に伴う地磁気変化に関してもその物理的機構については不可解な点が多く残っております。

近時地磁気測定器械及び測定法の精度が著しく向上し、かなり微妙な地球磁場変化も十分な正確度を以て測定出来る様になり、又他方では「地震予知」の研究が国際的レベルで重視されるに至りました。従って精密科学の一分野として表題の如き問題を取り上げる時期が到来したと判断致します。

この様ないわば野心的な課題についての研究会の第一歩は、本施設研究会の様な半公式な集会で心おきなく十分討議する事が最適と考えますので、今回「地震及び火山活動に伴う地磁気変化」を第3回本施設研究会のテーマとして取り上げました。

東京大学理学部地球物理研究施設

施設長 永 田 武